

韓国語成分副詞の語順教育における問題点について —韓国語教育の立場から—

Issues in Teaching Word Order of Korean Adverbs to Japanese Students

金 世 朗*

要旨

本稿は、韓国語教育における成分副詞の語順教育に関する問題点を指摘したものである。現在、韓国語教育では、副詞は修飾する用言のすぐ前に置かれるものというように、非常に簡潔に指導を済ませている傾向が見られる。しかし、韓国国内における副詞の先行研究を調べ分析した結果、同じ成分副詞でも述語の成分によって位置移動の自由さに相違があることと、場合によっては文体的な理由などから、述語と緊密な関係にある述語部内では移動が可能なが判明した。そのほか、하다動詞の場合、副詞によって位置移動の自由さがかわることなど、現在よりもっと具体的に段階的な副詞の語順教育の可能性が見られたし、今後の課題が多いことも確認できた。

キーワード：成分副詞の位置、語順教育、述語の成分、位置移動の自由・不自由、韓国語教育

1. はじめに

韓国語と日本語は、基本的な語順 (SOV) が同じで、助詞の使い方や修飾語が被修飾語の前に置かれるなど、文の基本的な構造において大きく類似している。そういうことから、初級段階における副詞教育は、「たくさん」=「많이」のように、その意味だけを提示する場合が多い。その結果、学習者の作文から次のような例が見られる。

- 1) *공원에는 많이 사람이 있어요. (初級学習者)

公園にはたくさん人がいます。

- 2) ?자주 나도 외국인하고 운명적인 만남을 해서 결혼하고 싶다고 생각한다. (中級学習者)

よく私も外国人と運命的な出会いをして結婚したいと思う。

副詞の位置において不自然な例⁽¹⁾だが、学習者が書いてくれた日本語訳を見ると、日本語と韓国語をそのまま一対一で代入していることがわかる。意味は同じなのに、日本語ではおかしくなくても韓国語では違和感を覚える。中には違和感があっても、非文にすることが難しい場合もある。しかし、韓国語教育において、副詞の語順に関する研究はあまり行われていないようで、参考のできる研究成果が見当たらないのが現状である。このような問題点をふまえ、本稿では、

* Kim,Se-Rang [非常勤講師]

まず、外国人のための韓国語教育において、副詞の語順についてどのような研究があり、どのような立場から指導しているかを紹介し検討した後、韓国国内における副詞研究の成果をまとめ、副詞の語順教育における問題点を指摘しようと思う。なお、本稿では、韓国語学習者に誤用が多く、語順の位置が固定的と言われている成分副詞を中心に見ていくことにする。

2. 韓国語教育における副詞の語順教育

韓国語の副詞は、大きく文全体にかかわる「文章副詞」と動詞や形容詞など、一定の成分にかかわる「成分副詞」に分けるのが一般的であるが、学習者の誤用が多く見られるためか、「成分副詞」を「副詞」と称して論じている場合が多い。

3) 그래서 많이 한국어책을 읽고 싶습니다 (✓그래서 한국어책을 많이 읽고 싶습니다)
(イタリア人学習者、初級)

4) a. 더 끈기가 있었으면 좋겠습니다.
b. 끈기가 더 있었으면 좋겠습니다.

5) 잘 영이는 노래를 부른다.
영이는 잘 노래를 부른다.
영이는 노래를 잘 부른다.

国籍・レベル別に韓国語学習者の誤用について分析している이정희 (2003: 157-159) では、文法的な誤用の一つとして、副詞の語順を挙げている。初級学習者は副詞語の位置を明確に把握できていないと指摘し、副詞は修飾する述語の前に置くという絶対的なルールを守らず、3) のように、目的語の前におく誤用がよく見られると述べている。また、語順における誤用のうち、副詞語の誤用率は70%に上ると言い、副詞の語順教育の重要性を指摘している。一方、日本人学習者に絞り、副詞使用に関する全般的な問題を扱った정예렌 (2004: vi) では、日本人学習者の誤用率の高い副詞として、「더」、「많이」、「좀」などを挙げ、初級(45%)より上級(55%)レベルの学習者に多くの誤用が見られ、持続的な指導が必要であると述べている。また、学習者に副詞が主語の前にある4) aと、述語のすぐ前にある4) bを一緒に提示し、4) bが自然な理由はなぜかを討議させたり、5) を提示し、副詞「조금」、「많이」、「더」、「잘」、「매우」は文頭に置けないことを指導したりした後、学習者に不自然な文章を選ばせる方法を通して、述語と離れば離れるほど誤用になる確率が高いことを認識させる指導法を提案している(정예렌 2004: 69-70)。이정희 (2003) と정예렌 (2004) は、いずれも、副詞の位置が述語のすぐ前であることを前提とした視点に立っており、学習者にそのように積極的に指導すべきであると語っている。

では、現在日本で出版されている学習書類ではどんな立場から副詞の語順を説明しているのだろうか。〈表1〉は、代表的な韓国語文法辞典および学習書の説明をまとめたものである。

〈表1〉によると、『韓国語文法辞典』では、文章副詞に比べ、成分副詞は文中における移動が不自由であると簡潔に述べている。学習書である『韓国語上達の近道ミス徹底分析』、『間違いやすい韓国語表現 100 初級』、『ライティングマスター』では、日本語と対照し、韓国語の副詞が

<表 1 >

『韓国語文法辞典』(p.30)	副詞の場合にも文章を修飾する副詞は比較的自由に移動するが、動詞や形容詞を修飾する副詞は語順の移動が自由ではない。
『韓国語上達の近道ミス徹底分析』(p.24)	잘という副詞の位置ですが、韓国語のほうにより厳しい制約があります。一般的に、副詞は動詞を飾る役割をするので、動詞の前に位置するのが普通でしょう。但し、動詞が~하다になるとこの制約もすこし緩んできます。~하다の動詞を一つの単語として捉える認知的働きのためでしょう。
『間違いやすい韓国語表現 100 初級』(p.113)	日本語では副詞の位置が比較的自由であるが、韓国語では修飾する動詞や形容詞の直前に置くのが良い。
『ライティングマスター』(p.36)	副詞の位置は日本語と違うときがあります。用言の直前にくることが多いのが韓国語の特徴です。
『韓国語学習ジャーナル hana』vol.1 (p.91)	修飾対象の前に来た方が自然なのは、その動作や状態を直接修飾して限定する副詞です。それに対して、特に動詞などの前に来なくてもよいのは、文全体にかかる副詞である。時間や頻度を表す副詞 ⁽²⁾ と用言の形と呼応して全体に係る副詞があげられます。「名詞+하다」から成る하다動詞を修飾する場合、名詞と하다の間に入り込むことがあるので注意しましょう。

日本語の副詞より語順において厳しい制限があることと、副詞の基本語順が修飾することばのすぐ前であるということと一致している。韓国語学習雑誌『hana』も、副詞は修飾することばのすぐ前に来るという基本的な立場は同じである。しかし、時間と頻度を表す副詞を別に扱っている点と、하다動詞について触れていることから比較的詳しく説明していると言える。

以上、外国人学習者の誤用を分析した研究成果と、学習書などを通して見たが、韓国語教育では、成分副詞は、基本的に修飾することばのすぐ前に置くものであるという立場に立っており、それを基準に文の正誤判定をはじめ、説明も簡潔に済ませていることがわかる。また、副詞の位置に関する説明は同じなのに、修飾対象が「動詞」、「動詞と形容詞」、「用言」というふうには違いがあるのには、いくら学習者にわかりやすく伝えるためとは言え、問題を感じるのである。

では、下の例を見てみよう。

- 6) 얼른 비가 개었으면 좋겠다.

早く雨があがったらいいな。(筆者訳)

- 7) 담배는 특히 때를 놓치면 아주 일을 망쳐 버리는 농사였다.

<煙草は特に時を逃がしたら |すっかり / 完全に| 仕事を台無しにする農事だった。><호박 33 >

- 8) 재개발이 된다고 해서 사람들이 많이 이사를 갔다. (우리교육 초등용 94/11)

再開発されると聞いて人々はたくさん引っ越した(引越しをした)。(筆者訳)

최현배 (1965 : 575) は、6) を用い、副詞が動詞などを修飾する時に、必ずしもその修飾語のすぐ前に位置しなくてもよく、その間に他の言葉を置いて、その下の被修飾語を限定することがあると指摘している。7) は程度副詞「아주」⁽³⁾の意味機能について論じている徐常揆 (1991 : 26) の例で、8) は世宗コーパス⁽⁴⁾から抽出した例であるが、いずれも動詞を述語としながらも、動詞のすぐ前でなくても不自然な感じはない。用言は被修飾語のすぐ前に置くものであるという韓国語学習書による説明だけでは、このような例は説明できないし、学習者の作文にこのような

例があった場合、指導に困るのは当然なことであろう。

3. 韓国の国語学における副詞の語順研究

<表 2>は、韓国における副詞研究の中で、成分副詞の語順に関する内容を抜粋して整理したものである。

<表 2>

손담익 (1998 : 119)	一般的に修飾語が被修飾語との意味的結合度が高ければ被修飾語の近く、すなわちすぐ前に置かれる。状態動詞(形容詞)や動作動詞(動詞)、すべてを述語にできる時間副詞と空間副詞 ⁽⁵⁾ は、統語論的に位置移動に制限がない反面、述語の選択に制限がある様態副詞 ⁽⁶⁾ と程度副詞は位置移動が自由ではない。
홍사만 (2002 : 190)	程度副詞は状態性を持つ用言や様態副詞を限定するもので、語順の位置が固定する性格を持つ部類である。
고영근·구본관 (2014 : 130, 140)	成分副詞は、特定成分を修飾する副詞なので、修飾する成分のすぐ前に位置する。よって、文章内の位置移動が容易ではない(特に程度副詞と象徴副詞(擬声語・擬態語)、否定副詞(안, 吳)など)。反面、時間副詞と場所副詞は位置移動が自由である。
최현배 (1965 : 575)	修飾する言葉は修飾される言葉のすぐ前に置かれるのが正常位置であるが、動詞などを修飾する時に、必ずしもその修飾語のすぐ前に位置しなくてもよく、その間に他の言葉を置いて、その下の被修飾語を限定することがある。
朴秉洙 (1976 : 154)	様態副詞は、動詞を修飾・限定・説明する副詞なので、その動詞の最も近く、すなわち動詞のすぐ前に置くべきである。しかし、文体上の理由により、移動が可能である。程度副詞は、修飾する形容詞や副詞の直前に位置するしかない。
성기철 (1992 : 130)	「깊이·많이·다·잘·고루」などは、文頭はだめだが、述語や述語部内では移動が自由な「述部自由副詞」である。中でもこれら副詞は述語のすぐ前を最も好む「述語指向的語順」をとる。

全体的な印象として、成分副詞は、修飾される言葉のすぐ前に位置するのがいいという意見に一致している。しかし、細かく見ていくと、程度副詞、象徴副詞(擬声語・擬態語)、否定副詞は位置移動が不自由な反面、時間副詞と場所副詞(=空間副詞)は比較的位置移動が自由だという意見があることから、同じ成分副詞でも修飾する成分によって位置移動における違いがあることがわかる。さらに、최현배(1965)、朴秉洙(1976)、성기철(1992)では、動詞を修飾する副詞に関して、基本的には被修飾語のすぐ前に置かれるが、比較的に位置移動が自由であると指摘している。位置移動の理由や範囲に関して、朴秉洙(1976)では文体的な理由により、성기철(1992)では強調などの理由によって、位置移動が可能であるとそれぞれ述べている。また、両者は、位置移動が可能だからといって文のどこにでも置けるわけではなく、修飾対象である述語と緊密な関係を持つ、述部の範囲内で移動可能であるということでも意見が一致している。

9) a [순이는 옛날에 [빨리 달렸다] VP]

b * [순이는 빨리 옛날에 [달렸다] VP]

10) [순이는 [급히 학교에서 급히 집으로 급히 갔다] VP]

朴秉洙(1976 : 153)は、様態副詞(動詞を主に修飾する副詞)は9) aと10)のようにVやVPの支配下の範囲では移動可能であるが、9) bのようにVPの範囲を超えたら非文法的な文になると指摘している⁽⁷⁾。

- 11) ㄱ. 부지런한 철수는 돈을 많이 벌었어.
 ㄴ. 부지런한 철수는 많이 돈을 벌었어.
 ㄷ. *많이 부지런한 철수는 돈을 벌었어.
- 12) ㄱ. 내가 철수보다 일을 더 많이 했다.
 ㄴ. 철수보다 내가 일을 더 많이 했다.
 ㄷ. 철수보다 내가 더 일을 많이 했다.
 ㄹ. 내가 철수보다 더 일을 많이 했다.
 ㄱ. 철수보다 더 내가 일을 많이 했다.

성기철 (1992:130-132) は、깊이, 많이, 다, 잘, 고루などを「述部自由語順副詞類」と称し、これらの副詞は、11) で見るように文頭はだめだ⁽⁸⁾ が、述部内(述部の前または目的語の前後)では移動が自由であると述べている。二人の研究者の説明から、副詞が主語や目的語の前にあった6)、7)、8) の例は説明できそうである。「비가 개다 (雨が上がる)」、「일을 망치다 (仕事を台無しにする)」、「이사를 가다 (引っ越す・引越しをする)」は主語及び目的語が述語と非常に緊密な関係にある。強調などの文体的な理由により、「얼른」、「아주」、「많이」をそれぞれの述語部の前に置いて述語部全体を修飾しているものと考えられる。さらに、성기철 (1992) は、語順が自由になる条件として、12) で見るように、程度副詞「더」の前に比較の対象成分「~보다」がくると、非常に自由な語順になると付け加えている。

- 13) 그이가 {a. 열심히 공부한다 / b. 열심히 공부를 한다 / c. 공부를 열심히 한다}.
 그이가 {a.? 잘 공부한다 / b.? 잘 공부를 한다 / c. 공부를 잘 한다}.

<表2>の研究者以外にも、서정수 (2008:27) は、先行名詞と分離可能な하다動詞について、13) で見るように、「열심히」は「공부하다」と「공부를 하다」、そして「하다」のいずれの前にも置けるが、「잘」は「하다」の前だけが可能であると説明し、하다動詞における副詞の位置が変則的であることを指摘している。また、韓国語文の基本語順について論じている김동식 (2002:23-24) は、語順判別基準として「ポーズ」や「口調」を挙げ、文の途中に間を置いたり、強い口調で発話したりする場合は、基本語順を守っていないことを表すと述べ、副詞の語順を考える際、話し言葉のこのような特徴も考慮すべきであるということが示唆された。

以上のことをまとめると、成分副詞は修飾する言葉のすぐ前に置くのが最も自然であるという基本的ルールのもとに、学習者には以下の内容を追加して指導できそうである。

- 1、同じ成分副詞でも述語の成分によって、副詞の位置移動の自由さが異なる。
- 2、時間副詞と場所副詞は比較的に位置移動が自由である。
- 3、程度副詞や象徴副詞(擬声語・擬態語)、否定副詞は語順に厳しい制限がある。
- 4、動詞を修飾する副詞は、文体的な理由などにより述語部内で移動が可能である。
- 5、「~보다 더」のように、副詞の前に比較の対象成分がくると、位置移動が自由になる。
- 6、하다動詞は副詞によってかなり変則的な語順になる。

もちろん、上で見た先行研究の結果も、研究者によって論点や意見が異なるうえに、課題が多く残されていると考えられる。例えば、時間副詞と場所副詞が位置移動において自由であると言うが、どれほど自由なのか、移動範囲に制限はないのか。文体的理由というのは具体的にどういふ話者の意図によるものなのか。하다動詞に関しても、変則的な語順を呈していると述べているのみで、その実態は究明していない。また、副詞「많이」や「아주」だけでも、動詞を修飾する場合と形容詞を修飾する場合があるが、両方とも程度副詞に入れられていることが多い。これは、副詞の分類によってではなく、副詞一つ一つの意味機能や語順を結び付けて分析を行うことと、それを考慮に入れた語順教育が必要であることを意味する。また、誤用の多くが学習者の母語の影響から生じることを考慮すると、日本語の副詞との対照研究も有効なものと考えられる。まだまだ残された課題が多いと言える。

4. おわりに

本稿は、副詞の語順に関心を持ち、研究を進め、韓国語学習者にもっと具体的で段階的な指導が必要であることを認識してもらうことを目的としたものであった。韓国語教育における副詞の語順教育に着目し、韓国語教育ではどのような立場から指導を行っているかを調べ、問題点を提議した。その次に、韓国国内における副詞に関する研究成果を分析し、副詞の語順についてより綿密な指導ができることと同時に、多くの課題があることも確認できた。

学習者に知識を伝えるときに、混同を防ぐために簡単なことから段階的に指導していくのはよいと考えられるが、副詞の語順教育に関しては、参考になる研究成果が乏しく、初級レベルを超えた段階的な指導ができない状態である。今よりも副詞の語順教育に関心を持ち、研究を深める必要があるのである。

注

-
- ⁽¹⁾ 2) の「자주」の位置は、述語「생각한다」の前が最も落ち着くと思われるが、話し言葉で使うこともあるので作文の添削の時に悩んだ例である。
- ⁽²⁾ 時間副詞には「오늘, 내일, 어제」を、頻度副詞には「가끔, 언제나, 항상」をそれぞれ挙げている。
- ⁽³⁾ 「아주」は一般的に形容詞を修飾する程度副詞とされているが、서상균 (1991) は、「아주」が動詞を修飾している⁷⁾を挙げ、程度の意味は潜伏し、様態の意味が強くなっていると指摘している。一つの副詞が程度副詞にも様態副詞にもなりうることを表している。
- ⁽⁴⁾ 韓国の文化観光部と国立国語院が一緒に推進してきた 21 世紀世宗計画によるもので、2007 年の事業結果、形態分析 750 万語節、形態意味分析 750 万語節、構文分析 80 万語節の分析規模を持つコーパスである。現代韓国語コーパス (文語、口語)、歴史資料コーパス、並列コーパス (韓英、韓日) に分類され普及活用されている (박문자 2013)。
- ⁽⁵⁾ 空間副詞は、고영근・구분관 (2014) の場所副詞 (어리, 그리, 저리、) と同じものであろう。
- ⁽⁶⁾ <表 2>의 손남익 (1998)、홍사만 (2002)、朴秉洙 (1976) が用いている「様態副詞」とは、動詞を主に修飾する副詞のことをさしている。動詞を修飾する副詞の名称に関しては、研究者による相違があるが、최현배 (1965) では「모양어찌씨 (状態副詞)」、이주행 (2001) と서상균 (2005) では「性状副詞」、最も大きな違いを表しているのは、남기심・고영근 (2014) と고영근・구분관 (2014) で、「様態副詞」という名称を話者の心理的態度を表す副詞を表すのに用いているので、注意が必要である。
- ⁽⁷⁾ その範囲を「様態副詞の位置制約」と称している。しかし、様態副詞が主動詞との距離が離れすぎると不自然な文になると付け加えている (p 153)。

⁽⁸⁾ 例ㄷのように文頭に副詞が来ると、本来の意味が変わるという意味から非文にしているのであろう。

参考資料

- 白峰子 (2004) 『韓国語文法辞典』 三修社
 梅田博之 (監修)・韓国語教授法研究トリアリ (著) (2004) 『ライティングマスター』 アルク
 油谷幸利・金恩愛 (2007) 『間違いやすい韓国語表現 100 初級編』 白帝社
 李昌烈 (2000) 『韓国語上達の近道 ミス徹底分析』 白帝社
 Hana 編集部 (2014) 『韓国語学習ジャーナル hana』 Vol.01、HANA (インプレス)
 世宗コーパス <http://www.sejong.or.kr>

参考文献

- 고영근・구본관 (2014) 『우리말 문법론』 집문당
 김동식 (2002) 「국어 문장의 기본 어순에 관하여 - 어순 판별 기준의 설정을 위하여 -」
 『한신인문학연구』 3, pp.5-27, 한신대학교 출판부
 남기심・고영근 (2014) 『표준국어문법론』 박이정
 박문자 (2013) 『코퍼스 활용과 한국어 교육』 박이정
 朴秉洙 (1976) 「양태부사에 대하여」 『언어』 1 (1), pp.151-167, 한국언어학회
 서상규 (2005) 「부사와 관형사」 『새국어생활』 15 (1), 국립국어원
 서정수 (2008) 『한국어의 부사』 한국의 탐구 32, 서울대학교출판부
 성기철 (1992) 「국어 어순 연구」 『한글』 제 218 호, pp.101-138, 한글학회
 손남익 (1998) 「국어 상징부사어와 공기어 제약」 『한국어 의미학』 3, pp.119-134,
 한국어의미학회
 이승명 (1986) 「부사 (어) 위치와 의미 영역에 대한 연구」 『수련어문논집』 13 권 단일호
 pp.115-131, 수련어문학회
 이정희 (2003) 『한국어 학습자의 오류 연구』 박이정
 이주행 (2001) 『한국어 문법의 이해』 月印
 정예랜 (2004) 「일본인 한국어 학습자의 부사 사용 연구 - 학습자 작문의 오류분석을 중심으로 -」
 연세대학교 교육대학원 석사 학위논문
 최현배 (1965) 『우리말본』 正音社
 홍사만 (2002) 「한·일어 정도 부사의 대조 연구」 『언어과학연구』 21, pp.189-222, 언어과학회
 徐常揆 (1991) 「現代朝鮮語の程度副詞について—副詞<아주>의<程度>と<樣態>の意味を
 中心に一」 『朝鮮學報』 140, pp.1-62, 朝鮮學會

